

市川団十郎（五代目）「徒然吾妻詞」

二十一

万の事は物くふにこそなくさむわさなれ

（展示箇所 ここから）

ある者のいふやう人は天より身の分量をう
け得て此世え生るれは大食する時は
分量早く尽て命みしかしといへは又
ひとりかいや／＼それこそ僻ことなり
命は食にありといへはとかく人は大食
してくらすよしとたかひにあらさひしは
月と露とを論したるよりおかしかりし也

二十二

何ことも古き世のみそしたはしき今様は
無下にいやしくこそなりゆくめれ史の
ことはなんともむかしの反古はいみしきに
只いふことはも口惜うこそなりもて行也
いにしへは車もたけよ火かゝけよといひ
しを後はもてあけよかきあけよとい
ひしとそそれさへあるに今時はもち
やあけるかきたてるもすさましいじやあ

（展示箇所 ここまで）

ねへしやあねへしやあねへかゑ